好きなことを、地域"で"しごとにする - 地域"でも"働くという選択肢-



2019 年 5 月 20 日 正能 茉優



正能業優 Mayu Shono

株式会社ハピキラFACTORY 代表取締役 慶應義塾大学大学院 特任助教 電機メーカー 企画職

1991年8月22日生まれ、27歳。 慶應義塾大学在学中、 地域の商材をかわいくプロデュースし発信・販売する 株式会社ハピキラFACTORYを創業。

大学卒業後は、広告代理店に就職。 現在は、電機メーカーで商品企画に携わりながら、 自社の経営も行う「パラレルキャリア女子」。

その自らの働き方の経験をいかし、 2016年度には、経済産業省「兼業・副業を通じた創業・ 新事業創出に関する研究会」の委員にも。

2018年より、慶應義塾大学大学院 特任助教として、学生たちと「地域における新事業創造」をテーマに、活動中。





地域のモノをかわいくして、発信・販売する



長野県小布施町の特産品「栗鹿の子」を、バレンタインギフトに。



渋谷PARCOなどで10日間販売し、2000個が完売。

モノづくり = つくる、広める、売る。

つくる 広める 売る



地域のモノの パッケージを変えたり、 リーフレットをつくったりすることで より付加価値の高い商品に。



商品づくりの過程や 商品そのものについて、 メディアに取り上げていただき、 お客様に知っていただく。





商品のコンセプトを 魅力的に感じてくださるお客様がいる 店舗・カタログで 実際に商品を販売する。

「つくったモノを、どこで売るのか考える」のではなく 「どこで売るかを前提に、つくる」。



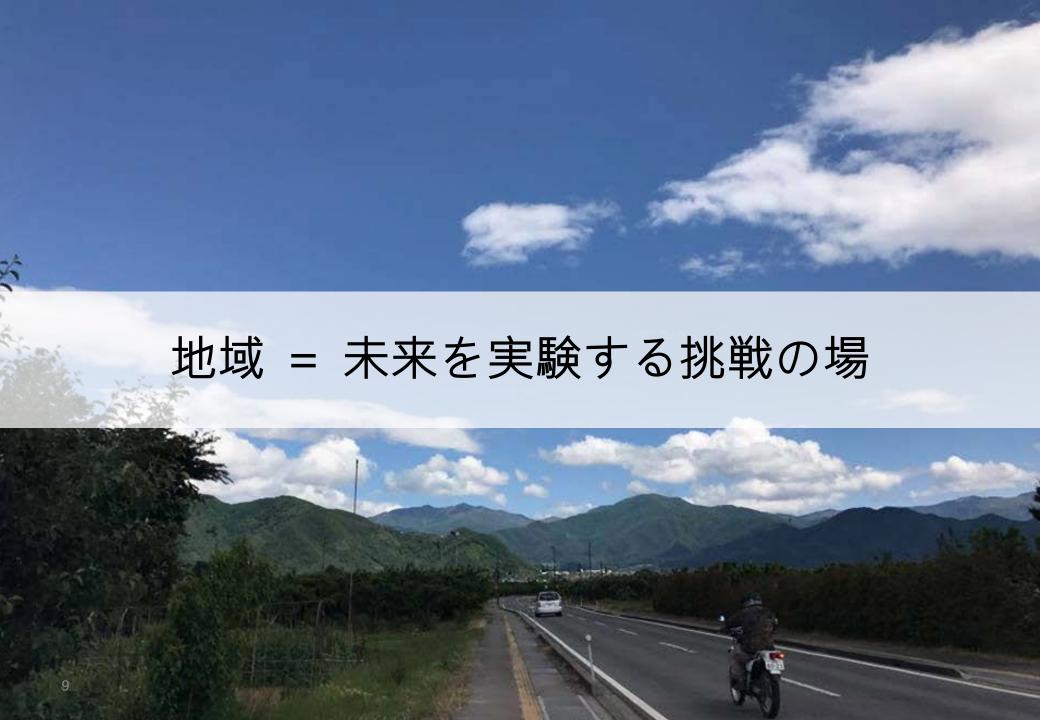




地域 "を" ではなく、地域 "で"。









長野県小布施町における 新事業創出プログラム



学生の好きなことを、地域"で"しごとにする。

学生の好きなこと

地域の困っていること



「デザインが好き!」 「インスタ映えする写真を撮るのが、得意」 「流行りのお店、たいてい行ってます!」





「若者向けの商品をつくりたい!」 「SNSでの発信の仕方がわからない…」 「若者向けの調査をしたい」

卒業後は、そのまま地域 "で "働くもよし。 就職して、地域 "でも "働くもよし。

私たち若者が、地域"で"挑戦したいと考える 3つの理由

- ① 私たちの得意なことを、必要としてくれている場
- ② 決めやすいサイズ感、動きやすいサイズ感
- ③ 活動に、大義を持たせやすい

